

常 報

つるはし

發行編輯 卷 常 六
 印刷所 株式平活版所
 發行所 常報つるはし社
 毎月三回二十、三十發行
 四頁 一部五錢一ヶ月十五錢

拾錢の偉力

皆さんのお子供さんを
 立派に教育する途

横田法相の死

政界の利権者で、未來の宰相を以て目されてあつた横田司法大臣の死は、政黨を論ぜず、朝野を擧げて惜むところで、實に國家の一大損失でありました。氏は丁稚小僧、新聞配達玄關番と、有所苦勞をして成功した、立志傳中の士であることは、世間周知の事でありました。

子だけは立派に

思ふに我常磐炭田に於ける、諸君の子弟中にも、既に成功したる、現に奮闘しつつある、この三月の卒業を待つて、發足しやうとする、小横田氏が、随分多數にある事と信じます。同時に諸君に於かれても、自分の一生は送らうと、せめて子弟は、立派なものにしたもの、親子供々に苦心して居らる、ことと思ふが實際御同情に堪へぬ次第であります。

一つの相談

之について記者は、諸君

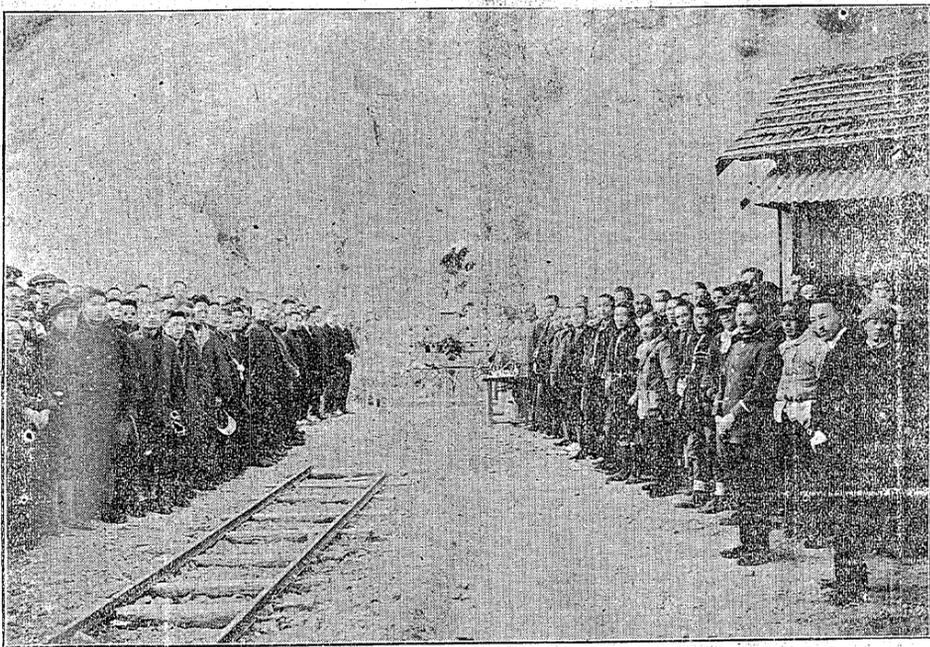
拾錢の偉力!

假に諸君の數を三萬人として、一人一ヶ月十錢を積み立てるとすれば三千圓となる。之を一人に對して、一ヶ月十圓つゝ補助するにすれば、實に三百人の苦學生を後援することが出来るのであります。之を基本として、本人と父兄とが少しく努力さへすれば、工業學校程度の學校を卒業させることは、さして六ヶ敷はないこと、信じます。

樂天地を作れ

かくてよしんば大臣とまではいかなくとも、相當な

技術家や勞務者となつて一家團圓、山協力して、樂



【式工起の問好】

青年諸君の机上に 無我即是趣味

俗人の大多數は、單に金儲けの爲めにのみ働いてゐる。俗人の俗人たる所以で

天地を形造ることが出来やうと思ふのであります。勞を辭せず 諸君にして幸に此趣旨に御賛成ならば、積立、貸出返濟等の方法を立案し、之を實現する爲に、進んで其犬馬の勞をとる丈の覺悟はもつて居るのであります。

趣味を有する事は、その生活に有意義ならしめ、人格を崇高ならしむる點から見ても、極めて有益な事としなければならぬ。空行く雲、野に生ふる草天地間に存する一切の物は裡に無限大の趣味を藏してゐる。有名なる俳聖松尾芭蕉がその下居深川の芭蕉庵で、古池や蛙飛び込む水の音の一句は、其の趣味が口を衝いて出た發露の極致であらう。

彼は國漢の書、學ばぬ所なく佛頂禪師に參じて禪の宗趣を究め、老莊の學に通曉し、餘技としては、繪をさへ能くした。旅行を好み足跡海内に遍く、元祿七年大阪で客死したが、之も旅行の途次であつた。其の臨終に際して、人が「御辭世は……」と乞ふと「年來咏んだ句はみんな辭世ぢや」と答へ更に一句「旅に病んで、夢は枯野を駆ける。」芭蕉は全然趣味に生きて趣味に死んだのである。退いてその心境を察するに、彼は無我的人であつた。無我的人であつたればこそ能く自然の懷に抱擁せられた、其の趣味を解し得たのである。

を成して後の事なり。要するに「無我なれ」と言ふにある。自然の趣味を解すること、無我的人のみの有し得る特權である。妄りに我を主張し私心、私慾を以てその頭を充してゐる者に趣味の解さるゝわけはない。無我は道德の大本であつて、そして趣味の源泉なのである。

各交際所 幹部紹介

- 好間斜坑幹部
 - 頭役 下坂 富造
 - 大當番 武田 久造
 - 箱元 長尾 文治
 - 小山 榮一 今寅 寅太郎
 - 右田 幸吉 八木 沼貞吉
 - 隣山及外部整理員 本田 幸太郎

◇新潟田中惣七郎氏御寄贈の金五圓で左の通り圖書を購入して御厚志を永く記念することに致しました
 肉彈 質實剛健(新井石禪師) 詔書の零解(同)
 ……【四面に續】…

懸賞

後山を 辛棒させるには 如何したら可いでせう

賞金

- 一等 金拾圓 一人
 - 二等 金五圓 二人
 - 三等 金參圓 三人
- ◎審査 左の方々に御願ひする事にしました
- 警城炭礦 高 濱 保 氏
 - 入山炭礦 大 貫 經 次 郎 氏
 - 福島炭礦 菊 地 德 太 郎 氏
 - 好間炭礦 實 川 兌 三 氏
 - 大日本炭礦 渡 邊 貢 氏
 - 茨城採炭 宮 内 肇 氏
- つるはし社 渡部 孝一
 締切期日切迫 至急御應募下さい